

# 人間と文化

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：准教授・上田耕介

科目担当者（職位・氏名）：

---

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢  
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：19

## ■ 授業概要

社会科学における基礎論を学習することによって、人間、社会、文化を捉える能力を育むことを目指す講義である。人間を対象とし、社会の中で活動する看護師にとって、人間とは何か、社会や文化とは何かを考えることは有意義である。加えて、看護研究において、質的研究が盛んになっているが、こうした研究の方法上の基盤も、講義で取り上げるものと深くかかわっている。本講義では、「行為と行動」「意味」「役割」など、理論的な基礎に関わる論点を、医療とも関わらせつつ解説していく。

## ■ 到達目標

1. 人間や文化に関する、学問的な基礎知識を身につける。
2. 文化の理論的位置づけについての多様な見解を理解する。
3. 文化と医療における人間と関わりを理解し、医療者の現状やあるべき姿の考察に役立てることが出来る。

## ■ 教育内容

科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解

## ■ キーワード

文化、理念と利害状況、行為と行動、役割

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	人間を動かすものは何か(1)——経済決定論	経済学を中心に見られる「自己利益を合理的に追求する人間」という見方と、その問題点について解説する。(講義)	上田
2	人間を動かすものは何か(2)——多要因論(1)	社会のあり方に対して文化の影響を認める代表的な理論を解説する。(講義)	上田
3	人間を動かすものは何か(3)——多要因論(2)	前回に引き続き、文化が社会に与える影響について解説する。(講義)	上田
4	行為と役割	行為論、役割論の基礎概念について解説する。(講義)	上田
5	病人の役割	病人を「役割」と捉える一見奇妙な議論を紹介し、それにまつわる論争を解説する。(講義)	上田
6	医療者の役割	病人役割と対になる医療者役割について解説する。(講義)	上田
7	医療における文化の変容	ここ数十年間にわたる医療文化の変容について解説する。(講義)	上田
8	まとめとふりかえり	これまでの講義内容のふりかえり。(講義)	上田

## ■ 履修条件

特になし

## ■ 成績評価方法

期末レポート（100％）によって評価する。

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

毎回、授業後にコメントの提出を求める。次回講義の冒頭にそれに応答する。希望者に対して、レポートのフィードバックを行う。希望者は、事前にアポイントをとったうえで、科目責任者の研究室を訪ねること。

## ■ 教科書

講師が作成・配布する資料にもとづいて講義を行う。

## ■ 参考書・参考資料等

・高城和義著（2002）『パーソンズ 医療社会学の構想』岩波書店  
そのほか講義中に適宜文献を紹介する。

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

受講後、講義内容のふりかえり、重要な点の復習を1～2時間程度すること。この他、講義の前後に予習・復習の課題を提示することがある。

## ■ 担当教員からのメッセージ

看護の対象である人間について問い直し、考えるための講義です。社会的な存在である人間とは何か、とりわけ病人や医療者とは一体何か、といった問題について、これまでの社会科学の知見をとりあげていきます。抽象的な議論に思われるかもしれませんが、医療者として具体的な患者さんに向き合うとき、有益な視点をもたらしてくれますので、理解を深めていきましょう。

## ■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 13、uyeda★iwate-uhms.ac.jp（※メールの際は★を@にしてください）、オフィスアワーは特に定めませんが、事前に連絡してから訪問のこと。

■ 担当教員の実務経験の有無

無

■ 担当教員の実務経験

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容